ふるさと歳時記

◆戦国時代の佐伯
栂牟礼城シンポジウム

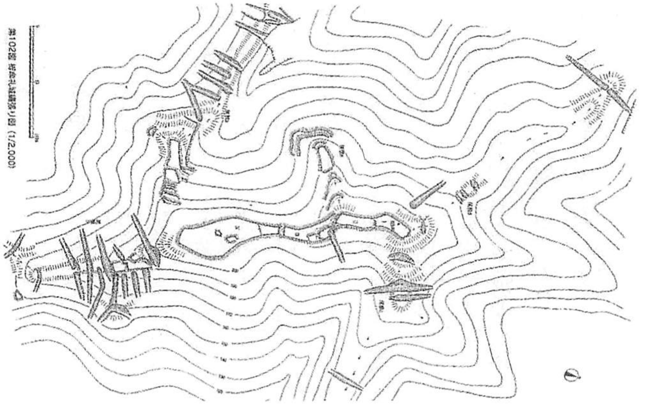
平成十九年十月十三日（佐伯市教育委員会主催）弥生文化会館で開催された。

パネラー６名によるディスカッション

栂牟礼城は戦国期の山城で、中世城館の調査によって国指定候補にあげられた。今回のシンポジウムは市民に広く知ってもらい、国指定史跡に採択されるための第一歩になるよう期待して開催された。

記念講演は「栂牟礼城と佐伯氏」と題して別府大学文学部文化財学科教授飯沼賢司氏が、基調報告は「発掘調査から見た栂牟礼城」と題して大分県教育庁埋蔵文化財センター副主幹原田昭一氏が、また「縄張りから見た栂牟礼城」と題して同主幹小柳和宏氏が講演した。

パネルディスカッションでは右三氏に加え、竹田市立歴史資料館学芸員中西義昌氏・佐伯市文化財保護審議会委員小野英治氏・佐伯市教育委員会文化振興課吉武牧子氏の六名が「栂牟礼城の歴史的位置付け・縄張り・城の保存と整備、活用」について討論された。



市民の関心は高く予想以上の入場者に資料が間に合わないほどであった。

◆佐伯氏位牌祭

佐伯惟治没後四八〇年を迎えた十一月二十五日、龍護寺観音堂にて開催された。同族としての来賓は西予市野村町出身の緒方惟幸氏・豊後大野市大野町の佐伯幸俊氏・地元狩生の野々下静氏。高知県土佐市の細木さん一行は前日仏前に花を添えて帰られた。

その他史談会員が八名程参加して無事終了した。終了後は緒方惟幸氏の希望で史談会員との懇親会がもたれた。

中世研究会では会報「豊後佐伯一族10号」を発行、伊予地に渡った佐伯氏と題して愛媛県西予市野村町の緒方氏を紹介した。

白潟八幡にて緒方惟幸氏

◆戦国時代の軍師

昨年の大河ドラマ「風林火山」の主人公・武田信玄の軍師山本勘助は、戦記物語『甲陽軍鑑』に登場し講談によってその名を広めたという。これまで架空の人物とされてきたが、山本菅助の名を記した「市川文書」が発見され、にわかに注目を集めている。

わが豊後では『大友興廃記』に大友宗麟の軍師角隈（つのくま）越前守と佐伯惟教の軍師宮脇周防守が軍配を巡って争論に及び、この氏姓の争いが国人衆の反乱を招き、佐伯惟教の伊予国亡命の要因になったことが記されている。

伊予に亡命中の惟教の許に山本道鬼（勘助）が滞在したことを記した、面白い書きものが西予市野村の緒方家にあ

緒方惟幸氏を囲んで（番匠茶屋）

る。これは天保四年十一月、当時田鶴屋と呼ばれた緒方家に逗留した和泉国の清酒屋守光（もりみつ）という人物が、当家の由来を聞き、書き残したものである。

田鶴屋（たづや）の詞（こと）

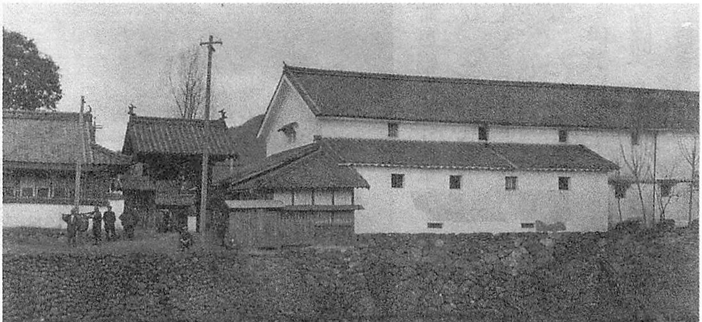
伊予国宇和郡野村の里なる緒方惟真の家におきつ年、守光（もりみつ）しひ柴（喪服）のしばしの礼、旅居せし時、あるじしばしのまにまに其家（そのいえ）の名を田（た）鶴屋（づや）となも名づけ置きたるよしと、鶴といふものは百鳥のつかさにして、齢（よわい）も千年をたもつ鳥となもありければ此家（このいえ）も千年八千歳、子孫（うみのこ）の八十連（やそつづ）属（き）に主（あるじ）まで朝日の豊栄登り（とよさかのぼり）に栄え、年どしの物ふせたるなり。

そもそも此家の遠祖（とおつみおや）は日向国姥（うば）嶽大神（だけおおかみ）の裔孫（はっこ）にして緒方三郎惟義（これよし）の末なり。

此主（このぬし）豊後の国にありて平氏の逆（さか）わざを深く愁（うれ）たみて文治の頃、甚（いみ）しき功（いさお）をなも立られし事は世の人々のよく知りたる事にしあれば、今更にいわじ。

其後（そのご）世々と歴（へ）て治部少輔惟教（これのり）に至りて、此里に移り来たりて此わたりはきつつ、代々富栄えにける。爰（ここ）に弘治の頃、山本道鬼武者修行といふらむ事しける。折しも軍の法策（のりこと）は当武士の奇（くす）しきわざ事など、惟教とかたみに語らひつつ三年ばかりとど

西予市野村町徳城の緒方家（昭和初期）



宝暦10年創業・緒方酒造の酒蔵門（昭和初期）

まりけるとぞ。
かくて慶長の頃、藤堂の君、此国を知行(しりおこ)なひしなり。(後略)

勘助は若い頃、中国・四国・九州・関東の諸国を遍歴し、京流兵法を会得し諸国の情勢に明るかったという。

勘助は天文十二年に武田家へ仕官したので、弘治年中に伊予の惟教と出会う機会はなかった。講談で諸国に広められた軍師山本勘助、その有名にあやかった物語である。

ところで佐伯には忘れがたい軍師がもう一人いる。佐伯惟定の客将山田土佐入道匡徳(きょうとく)である。彼は主君である日州伊東氏と共に大友を頼り豊後に逗留していた。天正十四年の堅田合戦で佐伯方の軍配をふるい、みごと島津勢を撃退した。

大野町の会員佐伯幸俊氏が飫肥歴史資料館で山田匡徳の遺品、甲冑を撮影して帰った(写真提供)。

軍師・山田匡徳の甲冑

◆大分県の歴史シリーズ
図説「海部・大野・竹田の歴史」
監修・豊田寛三　郷土出版社
定価一一，五五〇円

〔佐伯関連記事〕原始から現代

△東九州の弥生文化を象徴する土器
—下城式土器—
▲海の民を率いた豊後大神氏—藤原純友次将佐伯是本と大神惟基—
△海と山の古代の道
—海路・官道・「草原の道」—
▲佐伯惟治の乱と栂牟礼城
—海部郡の領主と城郭—
▲学者大名も輩出した歴代藩主の事績—佐伯藩主毛利氏と佐伯文庫—
▲佐伯城の築城と変遷
—三の丸櫓門と城下絵図—
▲木浦鉱山と尾平鉱山
—初めは岡藩のドル箱—
▲浦辺の産物と暮らし
—全国ブランド佐伯干鰯—
▲大隈重信のブレーンにもなった論客—矢野龍渓—
▲明治中期の佐伯と文豪
—国木田独歩と佐伯—
▲豊予要塞火を噴かず
—任空し佐伯海軍航空隊—
△番匠川流域七か村の連合で移民
—満州佐伯村—
▲パルプ産業の盛衰—興国人絹パル

プ株式会社から興人へ—
◆リアス式海岸は魚の宝庫
—豊後水道の水産業—
◆県南道路網の整備
—豊後水道の水産業—
△海に遊び海に学ぶ海洋総合施設—
大分県マリンカルチャーセンター
【ふるさとの遺産】
ジョーヤラ船・すみつけ祭・佐伯神楽・丸市尾神楽・風流杖踊り・堅田踊り
◆海の文化財—蒲江の漁撈用具—

◆ひこ星・おり媛星
七十年振りの合同同窓会をしよう!

高司良恵

戦時下の教育は、殆どの学校では男女別々でそのきまりもきびしいものがあった。

戦争もとっくに半世紀を過ぎ、次々と友垣も亡くなる一方、健康にも不安がつのる様になってきた。誰かともなく「合同・同窓会をしたら…」の声に、旧佐伯中学第33回生、第34回生、旧佐伯高女第34回生(みとし会)の同級生の集いの実現に向かって動き始めた。

11月11日、みとし会より三名が代表して中学側の同窓会に招かれ出席した。「恥しいなぁー」「どうしょうか」などなどの戸惑いもあったが、いざ会場につくと、いっぺんに吹きとんで、和やかな中に自己紹介もユーモアを交えながら幼日のあの頃がよみがえってきた。

「同級生っていいのう!」「幼心に抱いたロマンの花もちらちらと!」男女別々に受けた教育の中に青春の淡い夢

は今も、ほのぼのとあたたかい！

11月27日、代表八名による準備会を開き「やろう」という意思表示の確認を得、年明け早々、合同・同窓会に向かって始動する運びになった。

会場は佐伯で、開催日は十月下旬から十一月始めと大要を決めて散会した。世話人として総括は、大石一十さん（TEL24―0312　中の島2―12―27）にお願いした。

◆出前平和授業

佐伯市教育委員会文化振興課主催

高司良恵

・日時　十二月四日（火）

・対象　弥生町明治小学校五年生27名

・平和学習のねらい

戦争体験を聞いたり資料を見ながら話し合い、戦争のない平和な日々の幸せを深めさせたい。

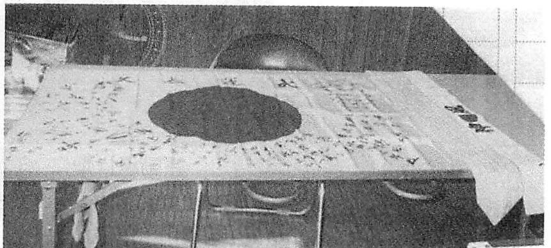
説明をする中村さん（佐伯教委文化振興課）

・資料

①体育時間にナギナタの練習「撃ちてし止まん」

②灯下管制「期末テストの家庭学習の様子」

③B29の来襲「空襲警報発令、急いで防空壕へ」



「武運長久の日の丸」・「千人針」・「神風鉢巻」

②ほしがりません勝つまでは「運動場にイモ・カボチャを植えた」

⑤集団児童疎開、学徒動員、佐伯小学校は因尾小学校へ

⑥玉音放送「20・8・15」戦争終結

出前授業の担当をしている文化振興課の中村さんは、「千人針」「武運長久

の日の丸の寄せ書き」「神風の鉢巻き」を子ども達に見せお話をした。

〔児童の感想文〕

・わたしは、夜の勉強の絵を見て、目が悪いわたしは、たぶん教科書の文字は眼鏡がないと見えなかったと思います。このことはぜったいおぼえておきます。

　次にわたしが一番びっくりしたことは、ごはんのことです。カボチャや豆やイモを食べていたということは、知っていたけど、校庭にカボチャやイモを植えていてびっくりしました。

（光永有希）

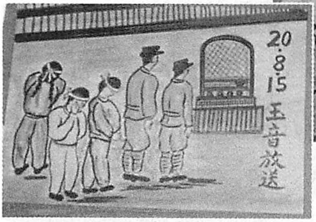
・私は帰ったら、おかしを食べたりしますが、昔は、そんなおかしとかは食べられなかったんだなあと思いました。女の子なのに戦う練習を体育の時間でしたり学徒動員で働いたりしていて、今、私たちは体育の時間はバスケットボールをしたりして六年生になったら、修学旅行に行くのに戦争の時代は、行けなくてかわいそうだった。

（髙野萌亜）

体育の時間（ナギナタ）

期末テストの勉強

豊後水道を北上するB29



正午、重大放送で全員
ラジオの前に集まった

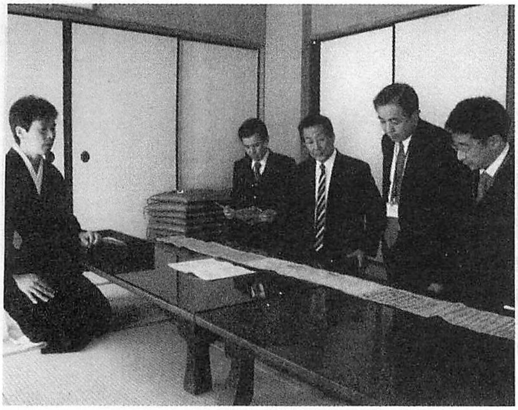
運動場は畑に

さあ！走って防空壕へ

◆善教寺寺宝展の予定

一月十五日、大分県立博物館の桜井氏と日田教委三名が布岳の描いた「咸宜園図」を見学に善教寺を訪れた。

日田市では咸宜園跡地を国指定史跡にするべく発掘調査や資料収集を進めているが、当時の絵図面がなく、明治十六年に描かれた布岳の「咸宜園図」は貴重だという。



現在善教寺では五月に寺宝展を計画しているが、日田市でも咸宜園門下生の小栗布岳展を是非やって欲しいと要望された。

◆寄贈図書紹介「国木田独歩足跡譜」

鎌倉市在住の会員神野幸人氏が独歩の足跡を訪ね探索記をまとめました。

一、国木田独歩年譜
二、出生と幼年時代
三、佐伯時代
　1、佐伯時代　生活譜
　2、佐伯に於ける国木田独歩
　3、山名驥氏　思い出話
　4、坂本真澄氏　思い出話
　5、佐伯独歩会会報
　6、源叔父　アルバム
　7、佐伯　アルバム
　8、佐伯の足跡（銚子ヶ渕外）
　9、熊本阿蘇（阿蘇の壮漢）
四、四国三津ヶ浜（琵琶法師）
五、川崎市溝の口（亀屋）
六、武蔵野（武蔵境・小金井）
七、武蔵野（雑司ヶ谷）
八、山口県柳井市（置土産）
九、ひたちなか市・塩原町・三鷹・渋谷
十、岩国市（川霧）・柳井市・平生町田布施町（帰去来）山口市・熊本宮地
十一、歌志内市・砂川市・赤平市（空知川の岸辺）
十二、湘南国木田独歩記
十三、独歩ゆかりの碑

また「或る特攻兵の記録」「日本の藤」各一冊を賜りました。厚く御礼申し上げます。